

授業科目名	母性看護Ⅰ			担当教員	永松 美雪、石山 さゆり 中村 美佳、園田 希	
開講年次	2年後期	セメスター	4	時間数(単位数)	30 (2)	
必修選択	必修	授業形態	講義	使用教室		
授業の目的	女性の各ライフステージにおける健康課題、女性特有の疾患に対する看護の特性、周産期看護の基礎となる周産期学の知識を学び、女性の生涯を通じた看護や健康支援を理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の健康は性周期ならびに性ホルモン変動に大きく影響されていることを理解できる。 2. 女性のライフサイクルの各ステージ（思春期・成熟期・更年期・老年期）の健康課題と支援について理解できる。 3. 女性特有の疾患に対する看護の特性を理解できる。 4. 妊娠、分娩、産褥の正常経過と異常について理解できる。 5. 新生児の生理的変化について理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	母性看護の基盤となる概念 性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義	最近の女性の健康をめぐるトピックス情報を集める（予習）	2時間	永松	
2	女性のライフサイクルにおける形態・機能 女性のライフサイクルと家族	講義	性周期について図式化し説明できるよう予習する	1時間	中村	
3	思春期における女性の健康課題と支援	講義	思春期における女性の健康課題について予習する	2時間	永松	
4	成熟期における女性の健康課題と支援	講義	成熟期における女性の健康課題について予習する	1時間	園田	
5	妊娠の生理的経過と妊婦・胎児のアセスメント／妊婦の心理・社会的特性	講義	「正常な妊娠」の章末学習課題について予習しておく	2時間	石山	
6	分娩の生理的経過と産婦・胎児のアセスメント／産婦の心理・社会的特性	講義	「正常な分娩」の章末学習課題について予習しておく	2時間	石山	
7	産褥の生理的経過と産褥婦のアセスメント／産褥婦の心理・社会的特性	講義	「正常な産褥」の章末学習課題について予習しておく	2時間	石山	
8	新生児の生理的経過とアセスメント	講義	「正常な新生児」の章末学習課題について予習しておく	2時間	石山	
9	妊娠の異常	講義	流産、切迫早産、妊娠高血圧症候群について予習する	2時間	永松	
10	分娩の異常	講義	前置胎盤、常位胎盤早期剥離、帝王切開術について予習する	2時間	永松	
11	産褥の異常	講義	弛緩出血、子宮復古不全、産褥熱について予習する	2時間	永松	
12	更年期・老年期における女性の健康課題と支援	講義	更年期・老年期における女性の健康課題について予習する	1時間	永松	

13	女性生殖器疾患をもつ女性への看護① 良性疾患：子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫など	講義	女性生殖器疾患（良性疾患）の看護について予習する	2時間	園田
14	女性生殖器疾患をもつ女性への看護② 悪性疾患：子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がんなど	講義	女性生殖器疾患（悪性疾患）の看護について予習する	2時間	中村
15	母性看護Ⅰの総括 女性の生涯を通じた看護と健康支援	講義	母性看護Ⅰにおける学習内容の中で理解不十分だった内容を整理し復習する	1時間	永松 石山 中村 園田
先行履修科目					
テキスト	森恵美 他：系統看護学講座 母性看護学 1 母性看護学概論 第13版、医学書院、2016. 森恵美 他：系統看護学講座 母性看護学 2 母性看護学各論 第13版、医学書院、2016.				
参考文献	厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2016/2017. 厚生労働統計協会、2016. 佐見由紀子 監修：わたしたちのからだと健康 Vol4 妊娠・出産と健康. 医学映像教育センター、2008. 齋藤いずみ 監修：分娩経過のアセスメントと看護 Vo6. 分娩1～4期の看護実践. 医学映像教育センター、2007. 小松美穂子 監修：母性看護学新生児のアセスメントとケア 1-2. 日本看護協会、1998. 井上裕美ら 監修：病気がみえる 産科 第3版. MEDIC MEDIA、2013. 井上裕美ら 監修：病気がみえる 婦人科・乳腺外科 第3版. MEDIC MEDIA、2013.				
科目の位置づけ	本科目は、女性のライフサイクルの各ステージにおける健康課題、多くの成熟期女性が経験する周産期における看護の基礎的知識を学ぶ科目である。看護の対象となる人々の半数は女性であり、女性特有の健康課題およびその支援や看護について理解することは重要である。また本科目は、3年前期に開講する母性看護Ⅱの基盤となる科目として位置づけられている。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
	○			◎	
評価方法	定期試験（80%）、課題・授業参加度（20%）				